

〈1000年単位での人類の課題〉

コロナウイルスの蔓延で、経済が停滞すると個人の生活にいかほど深刻な影響が出るかということがよくわかりました。経済活動が人間社会において極めて重要であることは間違いありません。しかし、ドラッカーが『「経済人」の終わり』（ダイヤモンド社）で指摘したように、経済至上主義では人間は幸せになりませんでした。

資本主義と社会主義は正反対の社会体制のように思えますが、実は共に経済活動を中心にした社会体制です。つまり、経済活動によって生み出された利益を資本家に分配するのが資本主義、労働者に分配するのが社会主義なのです。自由と平等を約束したはずの資本主義は、結局格差と恐慌を生み出し、人間を幸せにすることはできませんでした。一方で、階級のない社会の実現を目指した社会主義は、特権官僚という新しい階層を生み出したばかりでなく、競争のない社会が労働意欲の減退と経済の停滞をまねきました。ドラッカーは、この当時の大衆の絶望が、人々をファシズム全体主義に向かわせたと、『「経済人」の終わり』の中で論じたのです。

さらに、いま世界が直面する環境問題は、産業が社会の中心になった約200年前から、人間の強欲で突き進んできた経済至上主義が引き起こしたものだと言えるでしょう。環境問題は、産業人が責任をもって取り組まなければならない大きな課題です。

では、これらの大きな課題に私たちはどのように取り組んで行けばいいのでしょうか。ドラッカーは、そこには1000年単位での人類の課題が横たわっていると云います。

「これまでの1000年を振り返るならば、西洋の歴史は多元主義が確立され、衰退し、蘇生した歴史だった¹」とドラッカーは言います。

この「多元主義」の原書の単語は”pluralism²”です。”pluralism”とは、一つの社会に宗教・民族・政治信条などの異なるグループが共存しているという意味です。

ドラッカーは「1066年に、征服王ウィリアム一世の勝利でイングランドに封建制が確立されたとき、西洋は隅々まで複数の権力組織からなる多元社会となった³」と言います。そして、封建領主たちは、それぞれに権勢、富、力を追求し、社会全体の利益を考へるものはいませんでした。

その後、長弓や火薬といった武器が開発され、難攻不落の封建領主たちの城が攻め落とされ、「西洋の歴史は、主権国家すなわち社会における唯一の権力組織としての国民国家の発展の歴史⁴」になっていきました。

国民国家の誕生によって多元主義は終わりを告げたかと思われました。しかし、1860年ころから、人類史上前例のない存在としての近代企業が生まれ、その後続々と病院、大

¹ 『ネクスト・ソサエティ』P・F・ドラッカー著、上田惇生訳、(ダイヤモンド社)

² Peter F. Drucker “The Ecological Vision” Transaction Publishers

³ 『ネクスト・ソサエティ』P・F・ドラッカー著、上田惇生訳、(ダイヤモンド社)

⁴ 『ネクスト・ソサエティ』P・F・ドラッカー著、上田惇生訳、(ダイヤモンド社)

学といった利害集団が生まれ、多元主義が蘇っていたのでした。

封建領主たちと近代の組織の違いは、封建領主が財産と権力を基盤にするのに対し、近代の組織はそれぞれの機能を基盤とすることです。つまり、「単一の機能に焦点を絞ることによって成果をあげる⁵」のです。

ただ、近代の組織も封建領主と同じように自治を求め、社会全体のことはあまり考えていません。さらに、最近のグローバル企業は、主権国家の管轄さえ超えた自立性を持っています。

ドラッカーが指摘するとおり、これまでの人類の1000年は、多元主義が確立され、衰退し、蘇生した歴史だったのです。

これからの人類の1000年は、「あらゆる組織が、それぞれの機能への絞り込みを厳しく保ちつつ、社会全体のために協同し、各々の政治機関と協力する意思と能力を新たにしてい⁶」という取組みが必要になるとドラッカーは言います。

つまり、これからの人類の1000年の課題は、「社会の一体性をいかにして回復するか⁷」なのです。ドラッカーは「新たな1000年を前にした先進国に対し、これまでの1000年が遺した気の遠くなるほどに大きな課題がこれである⁸」と言うのです。

『渋沢栄一とドラッカー 未来創造の方法論』（角川書店）の第3章〈コラム⑤〉で説明した、知識社会の代表である「教育ある人間」が、この課題に取り組んでいかなければなりません。「教育ある人間」は、地域社会と密接につながると同時に世界市民として、それぞれの独立した伝統や機能を尊重しながらも、共通かつ共有の目的達成へとまとめあげていかなければならないのです。これができなければ、世界レベルでの環境問題は解決できません。

ドラッカーは「教育ある人間」について次のように言います。「これまでのあらゆる社会において、『教育ある人間』は、飾り物にすぎなかった。（中略）しかし知識社会では、（中略）『教育ある人間』が、社会の能力を規定する⁹」

この「教育ある人間」の能力が、世界レベルでの環境問題を解決できるかどうかを規定するのである。

文責：國貞克則

⁵ 『ネクスト・ソサエティ』P・F・ドラッカー著、上田惇生訳、(ダイヤモンド社)

⁶ 『ネクスト・ソサエティ』P・F・ドラッカー著、上田惇生訳、(ダイヤモンド社)

⁷ 『ネクスト・ソサエティ』P・F・ドラッカー著、上田惇生訳、(ダイヤモンド社)

⁸ 『ネクスト・ソサエティ』P・F・ドラッカー著、上田惇生訳、(ダイヤモンド社)

⁹ 『ポスト資本主義社会』P・F・ドラッカー著、上田惇生＋佐々木実智男＋田代正美訳、(ダイヤモンド社)